



建築士などの資格取得を支援する
建築界のさまざまな分野を牽引
業界の明日を担う若手、業界を目

これからの 建築

第89回

岸 隆司

株式会社総合資格
代表取締役

きし・たかし

1950年鳥取県生まれ。'69年、鳥取西高校卒業。'73年、関西大学卒業。'80年、名古屋市に(株)中部資格協会を設立。'87年、東京に(株)総合資格協会(現(株)総合資格)を設立、代表取締役役に就任。全国90余拠点に教室をもつ総合資格学院の学院長として、優秀な建築技術者育成のため陣頭指揮をとっている

岸—まず明星大学の沿革や特徴を教えてくださいいただけますか。
村上—明星大学は、明星学苑を母体として、1964(昭和39)年に開学しました。学苑の創立が'23(大正12)年ですから、再来年に創立100周年を迎えます。大学では、「自己実現を目指し社会貢献ができる人の育成」を教育目標にしていて、その特色はワンキャンパスに理工系・人文社会系・融合系の全9学部12学科が集結している総合大学であることです。この特徴を生かした「交わり、広がる」学びを大切にしています。

岸—2020年4月に従来の建築学科から、建築学部へ改組されましたね。
村上—これまで建築学科は理工学部の中の1学科としてあったのですが、私自身、建築という分野は理工学部やデザイン学部などのなかの1学科としてではなく、文化と技術を融合した学問領域をカバーするために独立した学部であるべきだと思っておりました。それがようやくかなったのです。

岸—近畿大学、工学院大学を皮切りに、建築学部を創設する大学も増えてきました。
村上—そうですね。共通する部分も多いのですが、各コースに専門性の高いカリキュラムを用意しています。ただし、これらのコースは入試の段階から分かれているのではなく、3年生の後期くらいまでは、自由に授業を選べるようにしています。4年生になって研究室に入るときにコースを選択することになります。それまでは興味を持ってそうな分野をいろいろ選択できるように、あえてフアジーな状態にしていく点は1つの特徴だと思います。

岸—受験の段階でコースを限定せず、学びながら将来を考え、選べるということですね。
村上—そうですね。1〜3年次にかけて専門基幹科目である建築設計製図を連続して学びながら、そのほかの基礎科目、専門発展科目を履修することで、建築の実践力を養っていきます。カリキュラムに沿って必修科目の単位を取れば、自動的に1級建築士資格の受験ができるのです。必修科目だけで受験資格が得られるのは、大学のなかでもまだ珍しいのではないかと思います。



建築設計製図の授業風景。必修科目として段階的に連続して学ぶことで、建築の実践的な力を磨く。大学開学当初より掲げてきた「実践躬行の体験教育」がここにも根付いている

また、学生の定員がほぼ倍増したことによって教員の数も大幅に増やせたので、さまざまな先生方を招聘することができました。その人選で特に重視したのは、実際に現場で活躍なさっていること。つまり、より実践的な内容、設計に直接結びつくことを教えていただければ、ということ。たとえば

総合資格の岸隆司社長が、
する企業のトップや建築家と対談し、
指す学生へのメッセージを発信します

これからの 人材

村上 晶子

明星大学建築学部長



むらかみ・あきこ

1960年東京都生まれ。'84年東京藝術大学美術学部建築科卒業。'86年同大学大学院修了。同年坂倉建築研究所入所。2001年村上晶子アトリエ設立。'05年明星大学理工学部建築学科(現総合理工学科)教授。'20年同大学建築学部長

9学部12学科が集まる 総合大学

岸—まず明星大学の沿革や特徴を教えてくださいいただけますか。
村上—明星大学は、明星学苑を母体として、1964(昭和39)年に開学しました。学苑の創立が'23(大正12)年ですから、再来年に創立100周年を迎えます。大学では、「自己実現を目指し社会貢献ができる人の育成」を教育目標にしていて、その特色はワンキャンパスに理工系・人文社会系・融合系の全9学部12学科が集結している総合大学であることです。この特徴を生かした「交わり、広がる」学びを大切にしています。

岸—2020年4月に従来の建築学科から、建築学部へ改組されましたね。
村上—これまで建築学科は理工学部の中の1学科としてあったのですが、私自身、建築という分野は理工学部やデザイン学部などのなかの1学科としてではなく、文化と技術を融合した学問領域をカバーするために独立した学部であるべきだと思っておりました。それがようやくかなったのです。

岸—近畿大学、工学院大学を皮切りに、建築学部を創設する大学も増えてきました。
村上—そうですね。共通する部分も多いのですが、各コースに専門性の高いカリキュラムを用意しています。ただし、これらのコースは入試の段階から分かれているのではなく、3年生の後期くらいまでは、自由に授業を選べるようにしています。4年生になって研究室に入るときにコースを選択することになります。それまでは興味を持ってそうな分野をいろいろ選択できるように、あえてフアジーな状態にしていく点は1つの特徴だと思います。

岸—受験の段階でコースを限定せず、学びながら将来を考え、選べるということですね。
村上—そうですね。1〜3年次にかけて専門基幹科目である建築設計製図を連続して学びながら、そのほかの基礎科目、専門発展科目を履修することで、建築の実践力を養っていきます。カリキュラムに沿って必修科目の単位を取れば、自動的に1級建築士資格の受験資格が得られるのは、大学のなかでもまだ珍しいのではないかと思います。

村上—そうですね。できれば全国の大学に建築学部ができるような流れになればよいと思います。建築を学ぶことは人間を学ぶことだと私は思っている。卒業後は建築の仕事に限らずどんな分野の仕事でもすぐに活躍できるでしょう。そして、建築の素養をもった人材が1人でも多く社会に出て、建築を見て、使って、大切にしていけば、国全体の文化や環境もより高まるのではないのでしょうか。

2020年からスタートした 建築学部としての特徴

岸—明星大学の建築教育の特徴、また学部になってからの特色などを教えてください。
村上—最大の特徴は、先ほども申し上げた総合大学ということ。多分野の学部が1カ所に集まっているので、建築の専門領域だけでなく、さまざまな授業を受けることができます。専門教育としては、従来からの体験型学習を引き続き行いつつ、学部創設にあたって、意匠を中心に建築全般について学ぶ「建築デザインモデル」、住まいのあり方を対象とする「住宅デザインモデル」、都市の環境や安全性、社会インフラ、地盤や水利などを学べる「建築エンジニアリングモデル」の3

